中学生期のスポーツ・文化芸術活動アンケートの結果について　資料１

スポーツ課・学びの改革支援課

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

○　中学生期のスポーツ・文化芸術活動における学校部活動の地域クラブ活動への移行について、県内の児童（5,6 年生）、生徒、保護者、教職員の意識を把握・分析することにより、本県の地域におけるスポーツ・文化芸術活動の環境整備に係る施策の方向性を明らかにする。

２　調査の名称

中学生期のスポーツ・文化芸術活動について　（以下「本調査」という）

３　調査の対象及び調査数（参考値）

（１）小学校調査…公立小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部の５・６年生全員
（２）中学校調査…公立中学校、義務教育学校後期課程及び特別支援学校中学部の１～３年生全員
（３）保護者調査…上記（１）、（２）の児童生徒の保護者全員
（４）教職員調査…公立小・中学校、義務教育学校、特別支援学校の教職員全員

本調査の調査対象数

	調査児童生徒数		
	対象数※1	回答数	回答割合
小学生	35,014 人※2	4,546 人	12.9%
中学生	53,046 人	3,829 人	7.2%
保護者	―――	9,962 人	―――
教職員	13,418 人	1,979 人	14.7%

※1　対象人数は、現在公表されている最新データ（令和 4 年度調査）の数を参考値として使用する。
※2　小学生の特別支援学校対象人数は、学年毎の数が公表されていないため、全校児童数の 1/3 を使用する。
※3　保護者の調査対象数は統計調査が行われていないため、対象数を空欄としている。

４　調査事項

（１）現在の学校部活動・民間クラブ活動の状況について

①休日の地域移行についての認知度
②現在の活動の所属先（中学生、保護者）
③現在の活動を行う（行わない）理由・目的　※顧問は、「活動で大切にしていること」
④現在の活動への満足度
⑤指導者、保護者が負担に思うこと（保護者、教職員のみ）
⑥現在の活動場所までの主な移動手段

（２）地域クラブ活動について

①休日の活動が地域クラブ活動になった場合に期待すること
②地域クラブ活動に移行する場合に不安なこと
③平日及び週休日・休日のスポーツ・文化芸術活動に希望する活動頻度

５　調査の方法

FORMS（URL 又は QR コードにより、各自で回答）による任意のアンケート調査

６　調査実施日

令和５年６月 22 日（木）から令和５年７月 14 日（金）まで

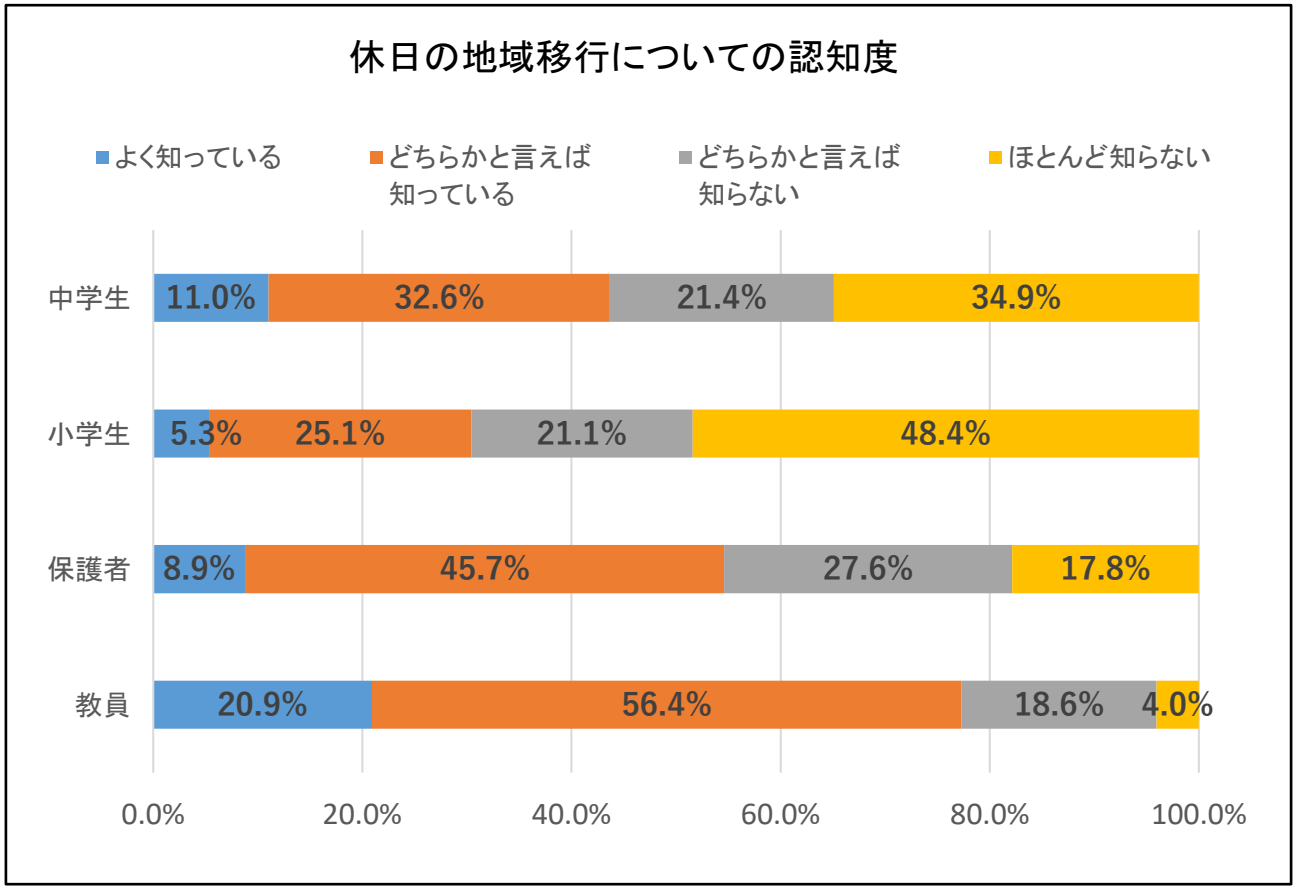
Ⅱ　調査の結果

１　現在の学校部活動・民間クラブ活動の状況について
（１）休日の地域移行についての認知度

【表１　休日の地域移行についての認知度（人）】

	よく知っている	どちらかと言えば知っている	どちらかと言えば知らない	ほとんど知らない	合計
中学生	423	1,249	820	1,337	3,829
小学生	242	1,142	961	2,201	4,546
保護者	883	4,556	2,745	1,778	9,962
教員	414	1,116	369	80	1,979

【グラフ１　休日の地域移行についての認知度（%）】



ポイント

・「ほとんど知らない」、「どちらかと言えば知らない」と回答した割合の合計が、中学生で５割超、小学生で７割超、保護者が５割弱となっている。

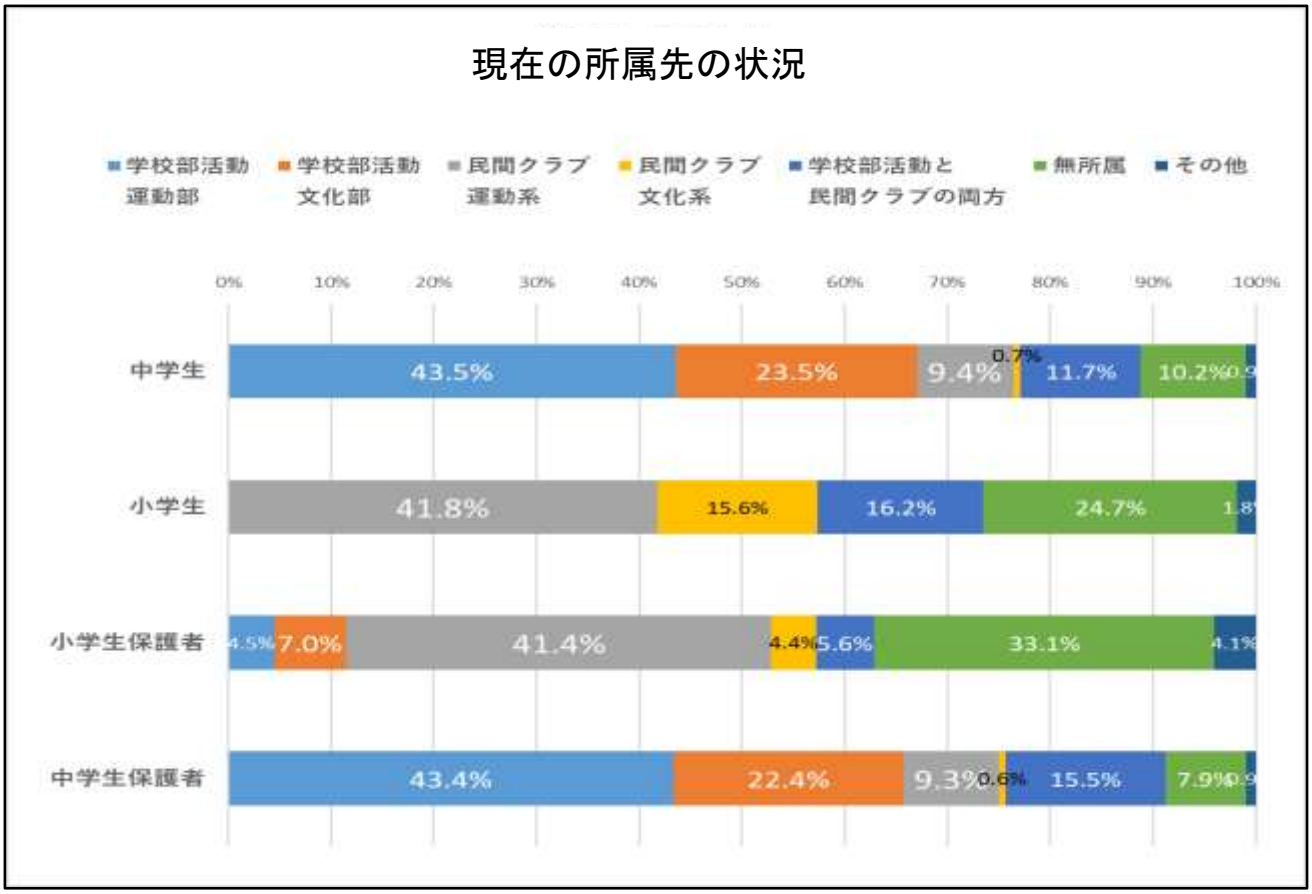
・小、中、保護者、教員の順に、認知度は高くなっている。

・「よく知っている」と回答した割合は、小学生、保護者で１割以下、中学生で１割、教員でも２割に留まっている。

（２）　現在の所属先の状況（中学生、保護者回答）

	学校部活動 運動部	学校部活動 文化部	民間クラブ 運動系	民間クラブ 文化系	学校部活動と民間クラブの両方	無所属	その他	合計
中学生	1,667	899	361	26	449	391	36	3,829
小学生			1,898	708	736	1,121	83	4,546
中学生保護者	2,384	1,231	512	34	854	433	50	5,498
小学生保護者	202	312	1,847	196	250	1,476	181	4,464

【グラフ２　現在の所属先の状況（%）】



ポイント

・小学生では約７割の児童、中学生では約９割の生徒が、何らかのスポーツ・文化芸術活動を実施している。中学生は、そのうち約８割の生徒が、学校部活動（民間と両方を含む）に所属している。

・小学生の約５割が民間クラブに所属しているが、中学生で民間クラブに所属している生徒は２割程度まで減少している。無所属の生徒も１割になる。

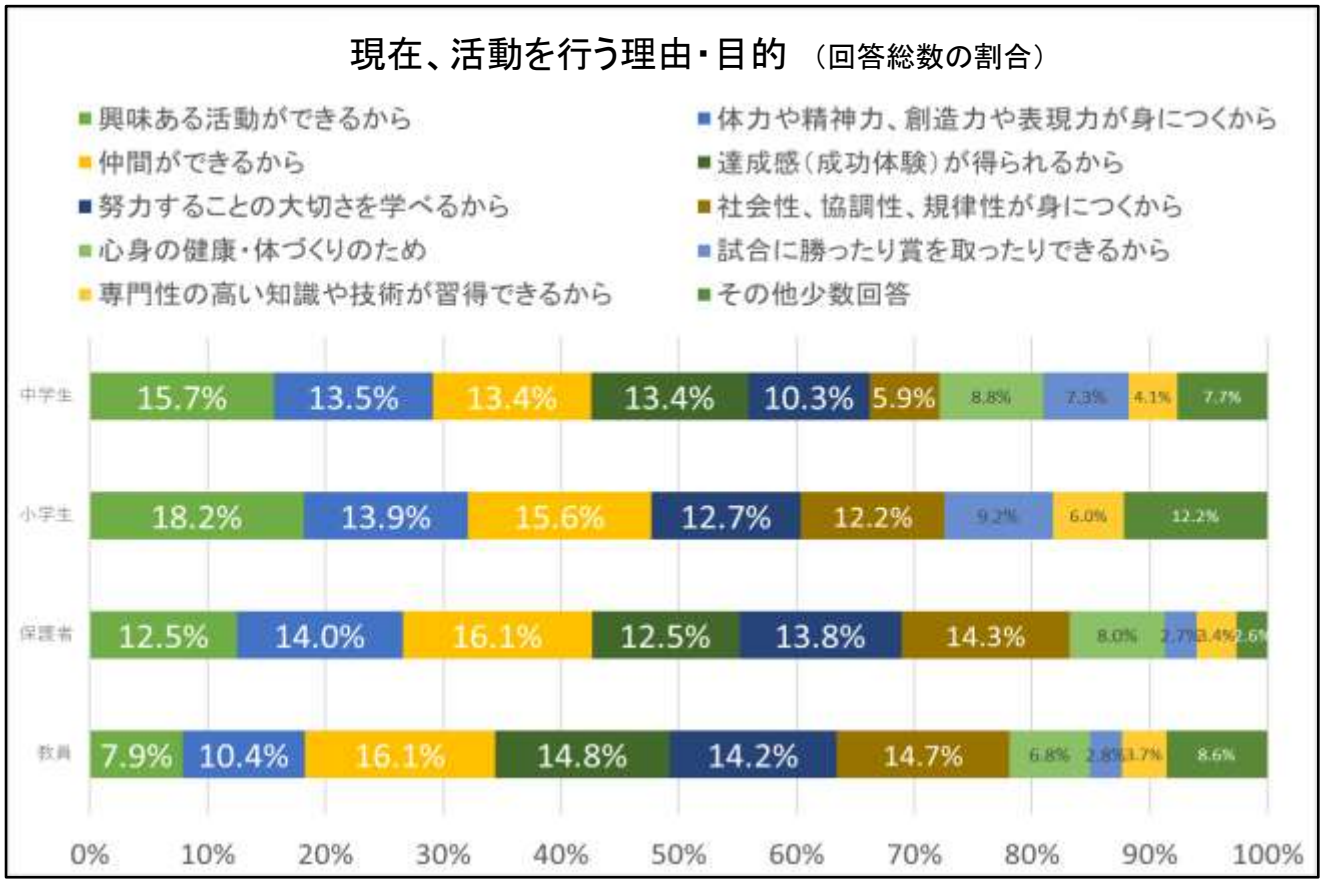
・運動系と文化系の比率について、学校部活動に比べて、民間クラブでは文化系の比率が低い。

（３）－１　現在の活動を行う理由・目的（上位５つまで複数回答可）

【表３－１　現在の活動を行う理由・目的・顧問として大切にしていること（人）】

	興味ある活動ができるから	体力や精神力、創造力や表現力が身につくから	仲間ができるから	達成感(成功体験)が得られるから	努力することの大切さを学べるから	社会性、協調性、規律性が身につくから	心身の健康・体づくりのため	試合に勝ったり賞を取ったりできるから	専門性の高い知識や技術が習得できるから	ひまを持て余さないですむから	進学に有利になるから	安価で活動できるから	親や親せきに勧められるから	生徒とのコミュニケーション	特になし	その他	回答総数	対象人数
中学生	2,028	1,750	1,733	1,731	1,338	766	1,140	948	525	310	355	71			162	101	12,958	3,829
小学生	1,682	1,289	1,440		1,177	1,126		849	559	266	223	64	193		261	124	9,253	4,546
保護者	4,355	4,882	5,584	4,355	4,796	4,970	2,799	949	1,181	58	158	583			45	70	34,785	9,962
教員	424	563	868	801	765	793	365	149	202		8	49		361	21	26	5,395	1,979

【グラフ３－１　現在の活動を行う理由・目的・顧問として大切にしていること（%）】

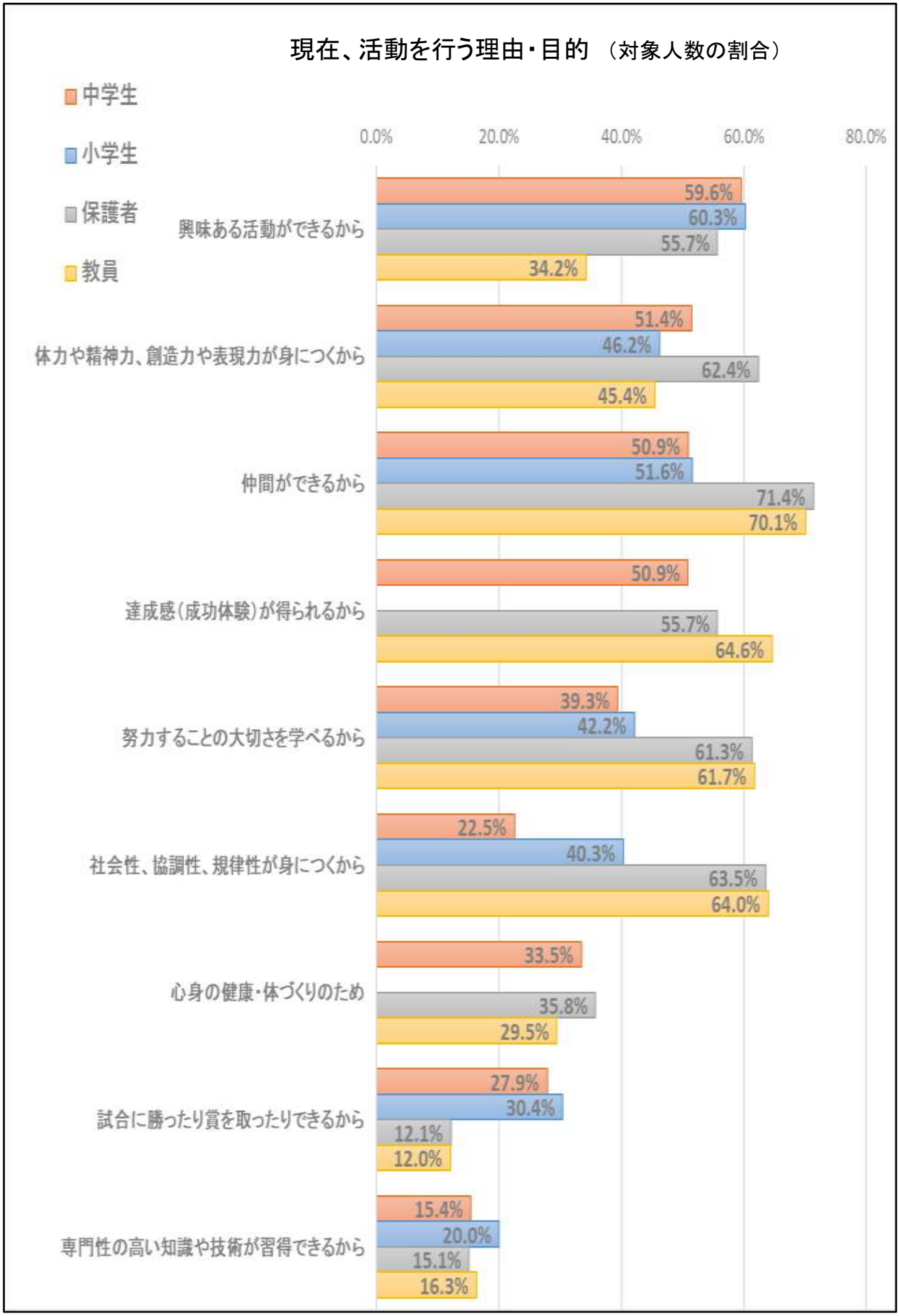


ポイント

・小中学生の上位は、「興味ある活動ができる」、「体力や精神力、創造力や表現力が身につく」、「仲間ができる」、「達成感が得られる」等。一方、保護者や教職員は、「仲間ができる」は児童生徒と同様に高いが、他に「社会性、協調性、規律性」や「努力することの大切さを学ぶ」等の児童生徒の健全育成に係ることを重視している。

・中学生、保護者、教員では「試合に勝ったり賞をとったりできるから」や「専門性の高い知識や技術が習得できるから」が、それぞれ５％未満となっており、現在の活動に関して、高い知識や技術の習得への期待は高くない。

【グラフ３－１（全項目）　現在の活動を行う理由・目的・顧問として大切にしていること（%）】

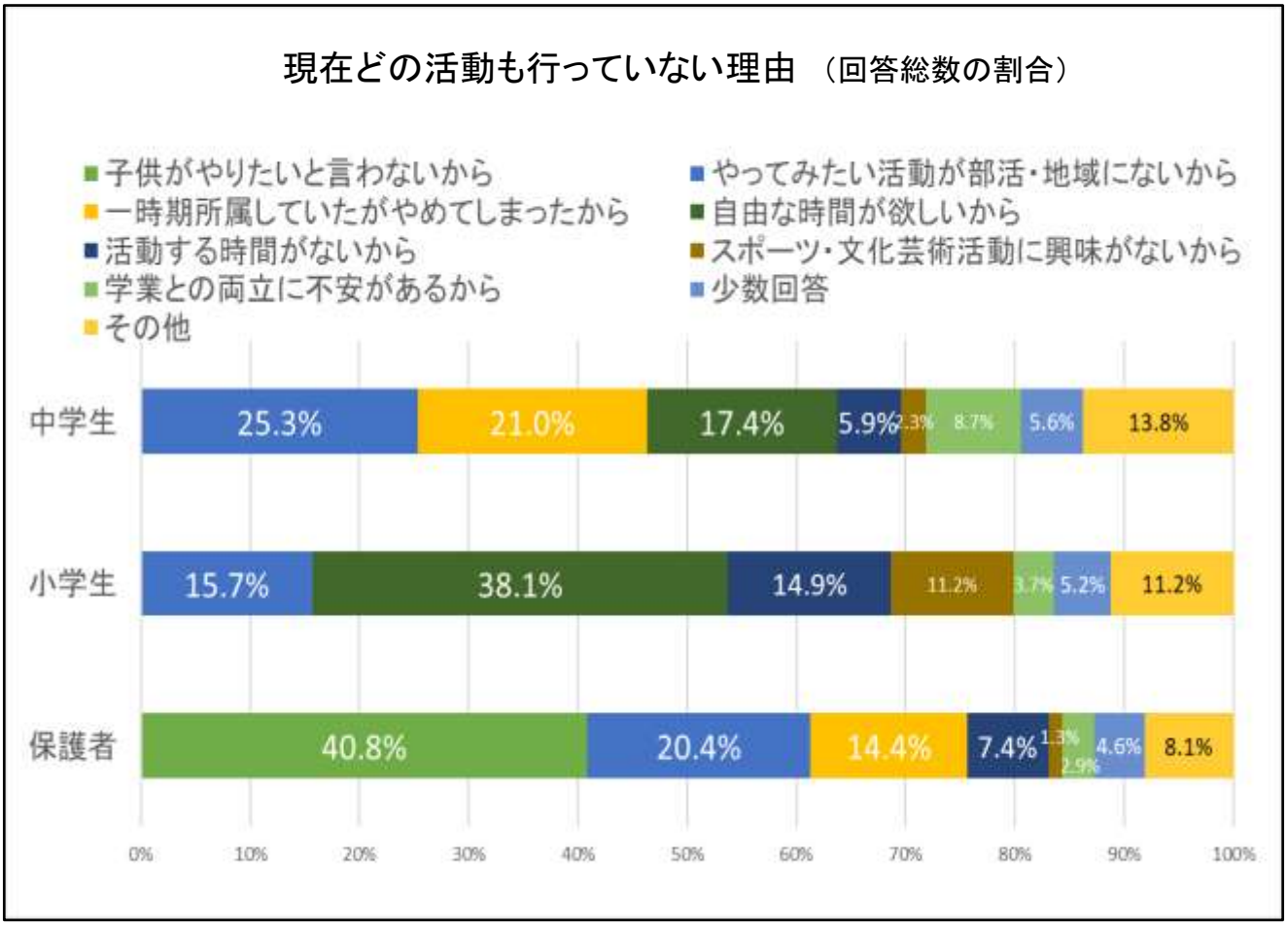


（３）－２　現在どの活動も行っていない理由（上位５つまで複数回答可）

【表３－２　現在、どの活動も行っていない理由（人）】

	子供がやりたいと言わないから	やってみたい活動が部活・地域にないから	一時期所属していたがやめてしまったから	自由な時間が欲しいから	活動する時間がないから	学業との両立に不安があるから	人間関係に不安があるから	スポーツ・文化芸術活動に興味がないから	活動する費用が負担になるから	その他	回答総数	対象人数
中学生		99	82	68	23	34	18	9	4	54	391	391
小学生		21		51	20	5	6	15	1	15	134	134
保護者	752	376	265		136	53	32	24	53	150	1,841	1,909

【グラフ３－２　現在、どの活動も行っていない理由（%）】

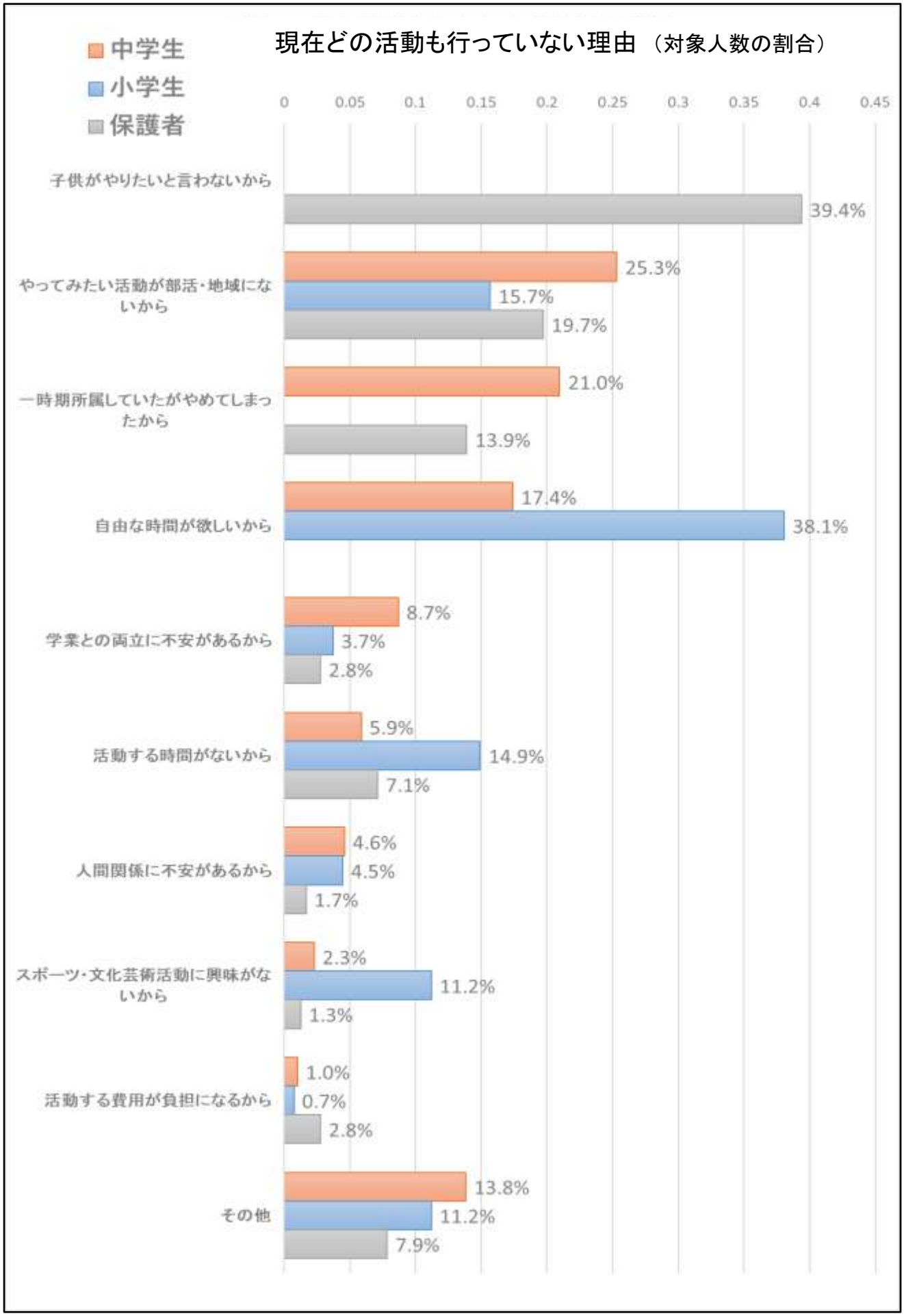


ポイント

・保護者は、「子供がやりたいと言わないから」が４割に達しており、子供の興味関心に応じている傾向がうかがえる。

・中学生では、「やってみたい活動がない」、「一時期所属していたがやめてしまったから」の割合も高く、子供たちの「やりたい活動」のニーズに応えられていないことが考えられる。

【グラフ３−２（全項目）　現在、どの活動も行っていない理由（%）】

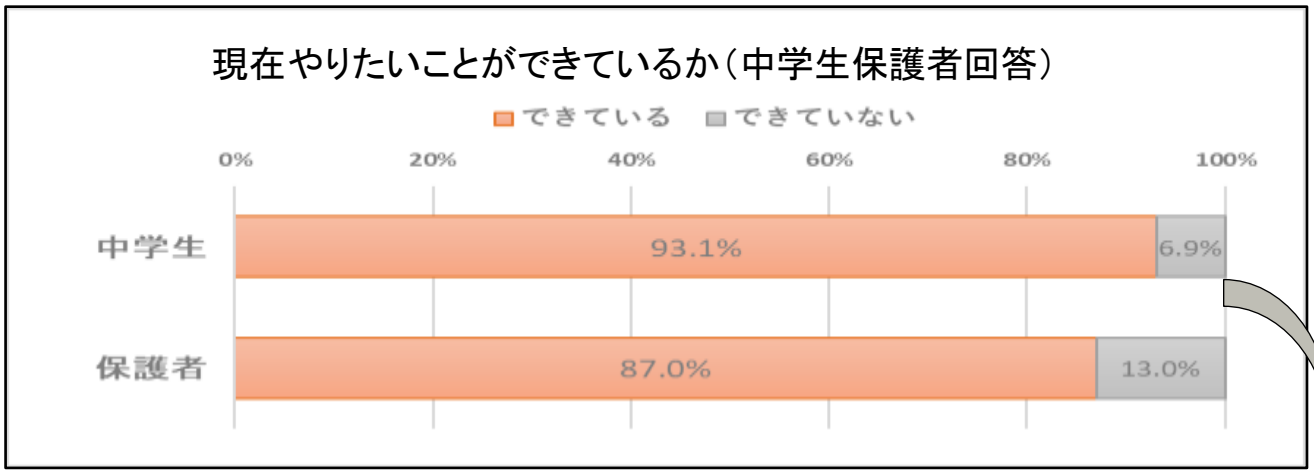


（４）　現在やりたい活動ができているか（中学生、保護者回答）

【表４　現在、やりたい活動ができているか（人）】

	できている	できていない	合計
中学生	3,250	242	3,492
保護者	6,774	1,014	7,788

【グラフ４　現在、やりたい活動ができているか（%）】



「できていない」と回答した 6.9%の生徒の内訳は…

学校部活動	民間クラブ	両方	無所属	合計
165	26	23	28	242

【複数回答あり】

学校部活動所属生徒の理由　165 人		**民間クラブ所属生徒の理由　26 人**	
①　活動内容や時間、方針の違い	４８人	①　やりたい種目がなかった	１１人
②　やりたい種目がなかった	４５人	③　活動内容や時間、方針の違い	２人
④　顧問の在り方に不満	１４人	②　顧問の指導力・専門性がない	１人
⑤　人間関係の悩み	１１人	③　運動に興味が持てない	１人
⑥　設備・用具への不満	７人	**④　大会に出られない**	**1人**
⑦　顧問の指導力・専門性がない	７人	**⑤　怪我があるから**	**1人**
⑧　人数がそろわない	６人	**⑥　無回答**	**１０人**
⑨　その他	２２人	**民間クラブに入っている生徒でも、「学校にやりたい種目の部活動があれば部活に入りたかった」と考えている生徒がいる。また、大会等の参加制限があることを残念に思っている。**	
⑩　無回答	１８人		

ポイント

・中学生、保護者共に、およそ９割が現在のスポーツ・文化芸術活動でやりたいことができていると感じている。現在の活動に満足できている生徒、保護者には、学校部活動の地域への移行に必要感持ちにくいことが考えられる。

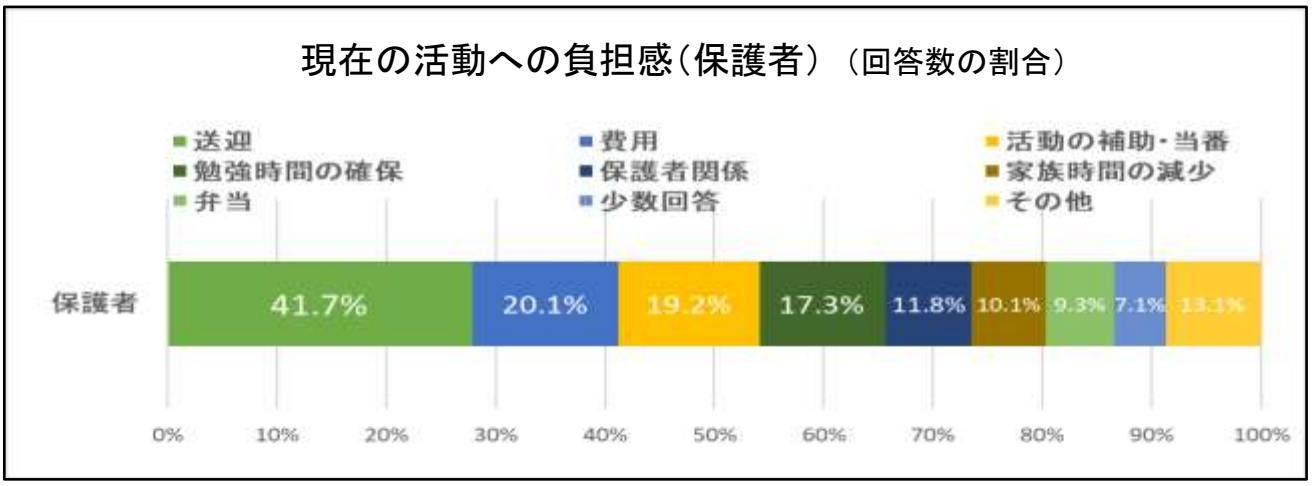
・「できなていない」と回答した生徒の詳細は上記の通り。

（５）　現在の活動への負担感について（保護者、教員 上位３つ回答）

【表５－１　現在の活動への負担感（保護者）（人）】

	送迎	費用	活動の補助当番	勉強時間の確保	保護者関係	家族時間の減少	弁当	指導者と方針の違い	洗濯	その他	合計
保護者	4,153	2,003	1,915	1,721	1,180	1,008	923	504	199	1,308	9,962

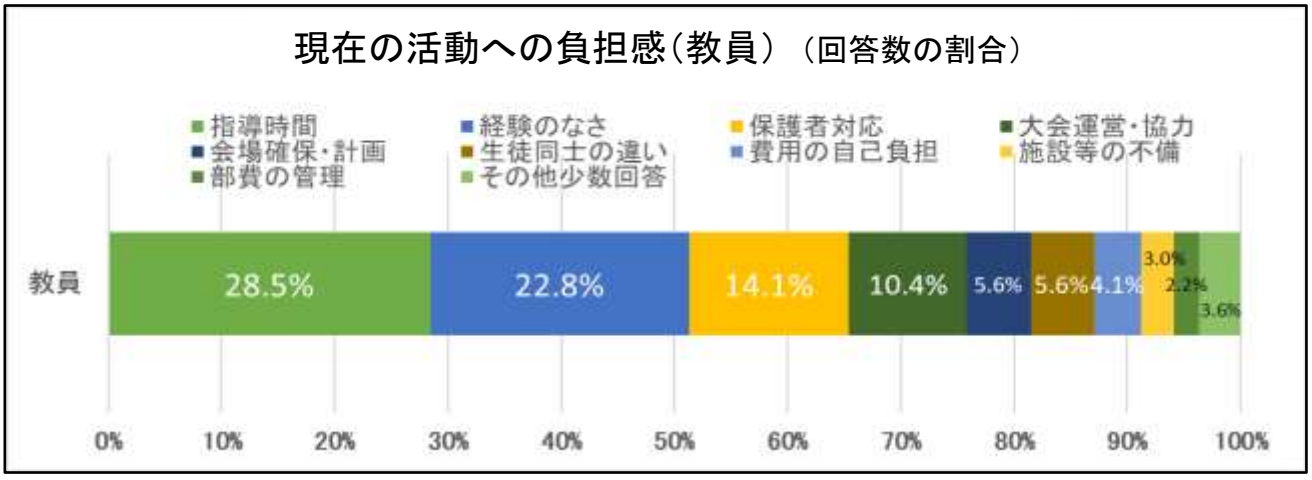
【グラフ５-1　活動への負担感（保護者）（%）】



【表５－２　現在の活動への負担感（教職員）（人）】

	指導時間	経験のなさ	保護者対応	大会運営・協力	会場確保・計画	生徒同士の違い	費用の自己負担	施設等の不備	部費の管理	家庭環境への配慮	特になし	その他	合計
教員	964	773	479	353	191	191	139	100	75	59	32	32	3,388

【グラフ５－２　活動への負担感（教職員）（%）】

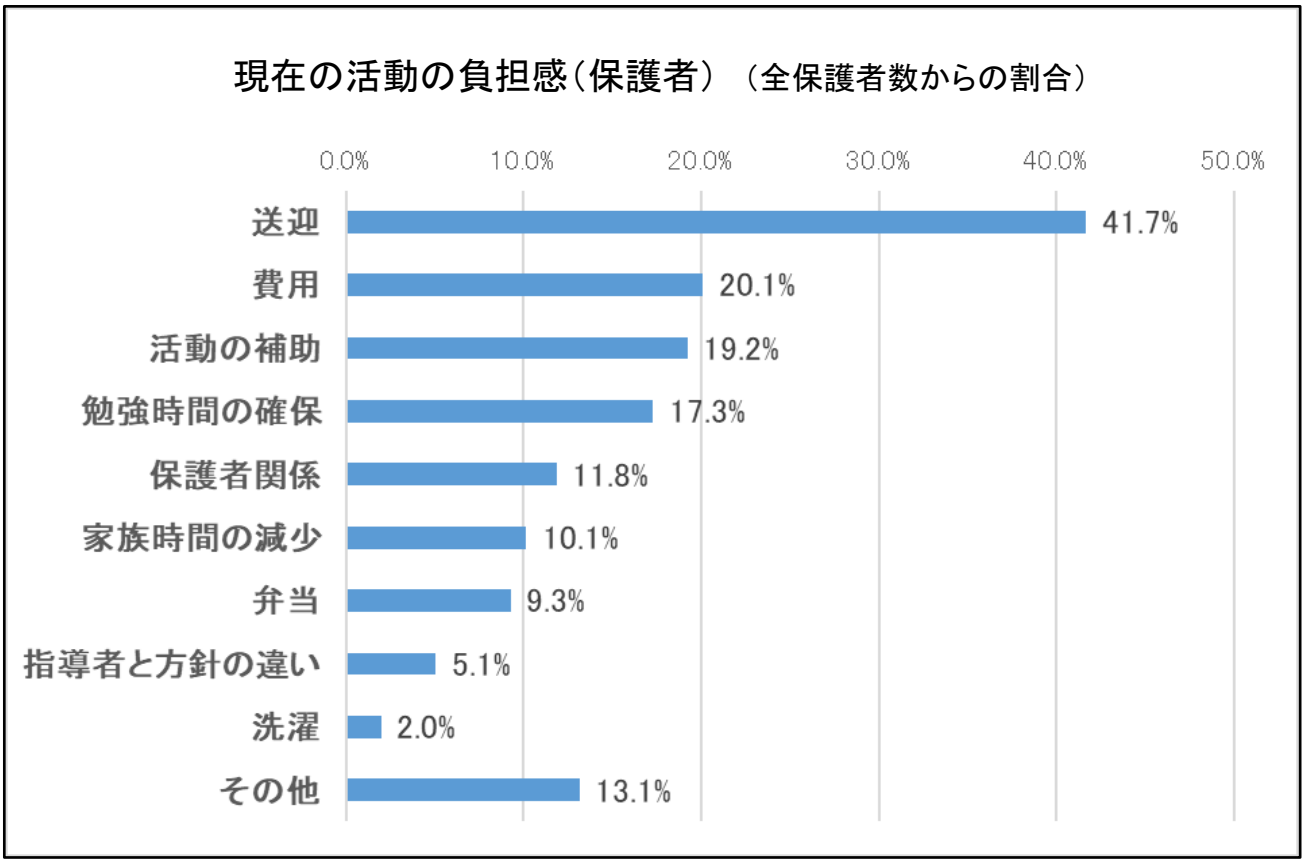


ポイント

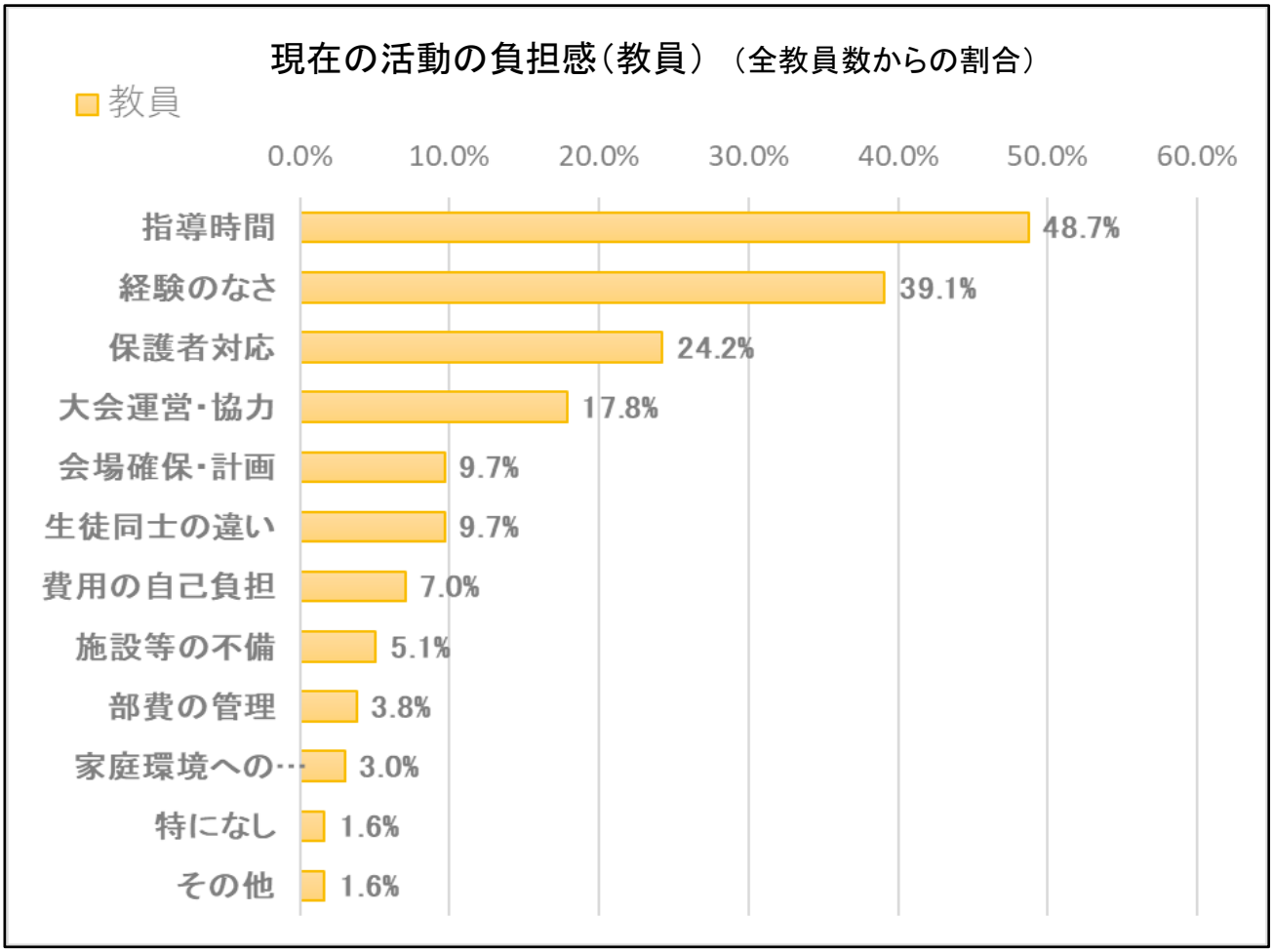
・保護者では、「送迎」の割合が最も高く、続いて「費用」や「活動の補助・当番」が挙げられている。地域移行後に懸念されている、「送迎」や「費用」については、現在の活動においても、すでに保護者の負担になっている。

・教員では、「指導時間」、「経験のなさ」、「保護者対応」、「大会運営・協力」等が高い割合を占めている。授業準備や生徒指導以外での、部活動に係る業務の多さが、顧問を担う教員の負担感につながっていることと考えられる。

【グラフ５-1（全項目）　活動への負担感（保護者）（%）】



【グラフ５-２（全項目）　活動への負担感（教職員）（%）】

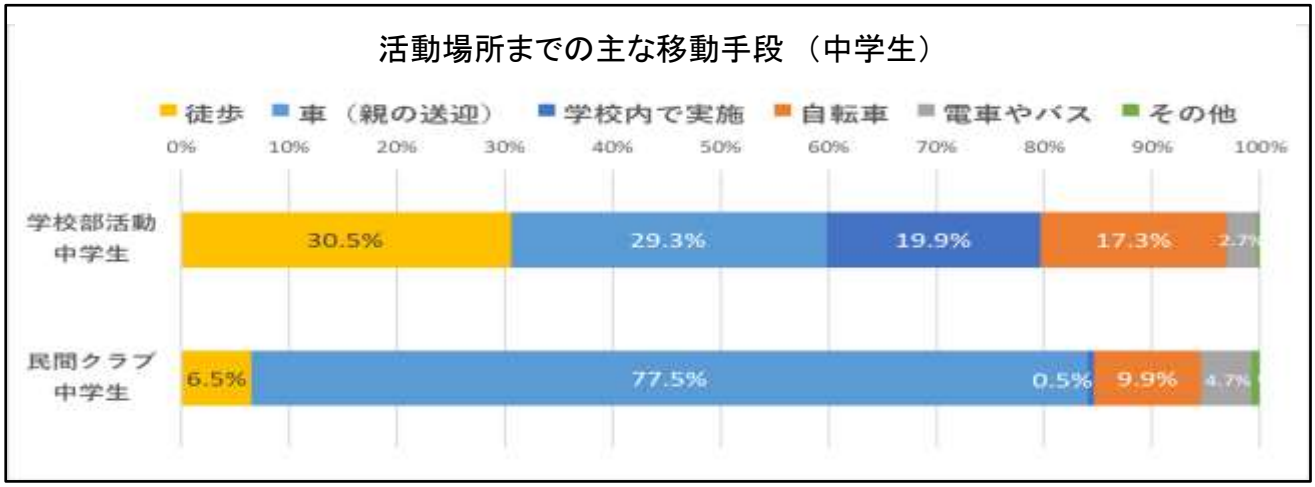


（６）活動場所までの主な移動手段（中学生回答）・送迎時間（保護者回答）

【表６－１　活動場所までの主な移動手段（人）】

	徒歩	車（親の送迎）	学校内で実施	自転車	電車やバス	その他	合計
学校部活動中学生	779	746	507	441	69	8	2,550
民間クラブ中学生	25	297	2	38	18	3	383

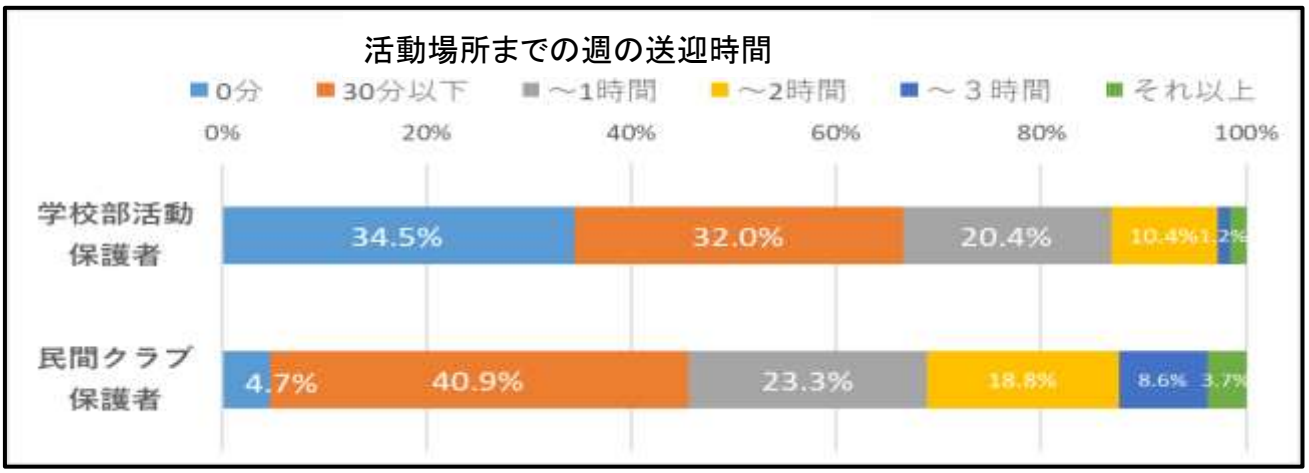
【グラフ６－１　活動場所までの主な移動手段（%）】



【表６－２　活動場所までの週の送迎時間（人）※自由記述のため、以下項目で読み取れるものを抽出】

	0分	30分以下	～1時間	～2時間	～3時間	それ以上	合計
学校部活動保護者	602	559	357	181	21	27	1,747
民間クラブ保護者	85	742	422	341	156	68	1,814

【グラフ６－２　活動場所までの週の送迎時間（%）】



ポイント

・民間クラブ所属の生徒では、８割近くが「親の送迎」で移動している

・送迎時間も、民間クラブの保護者の方が長い時間の割合が高くなっている。

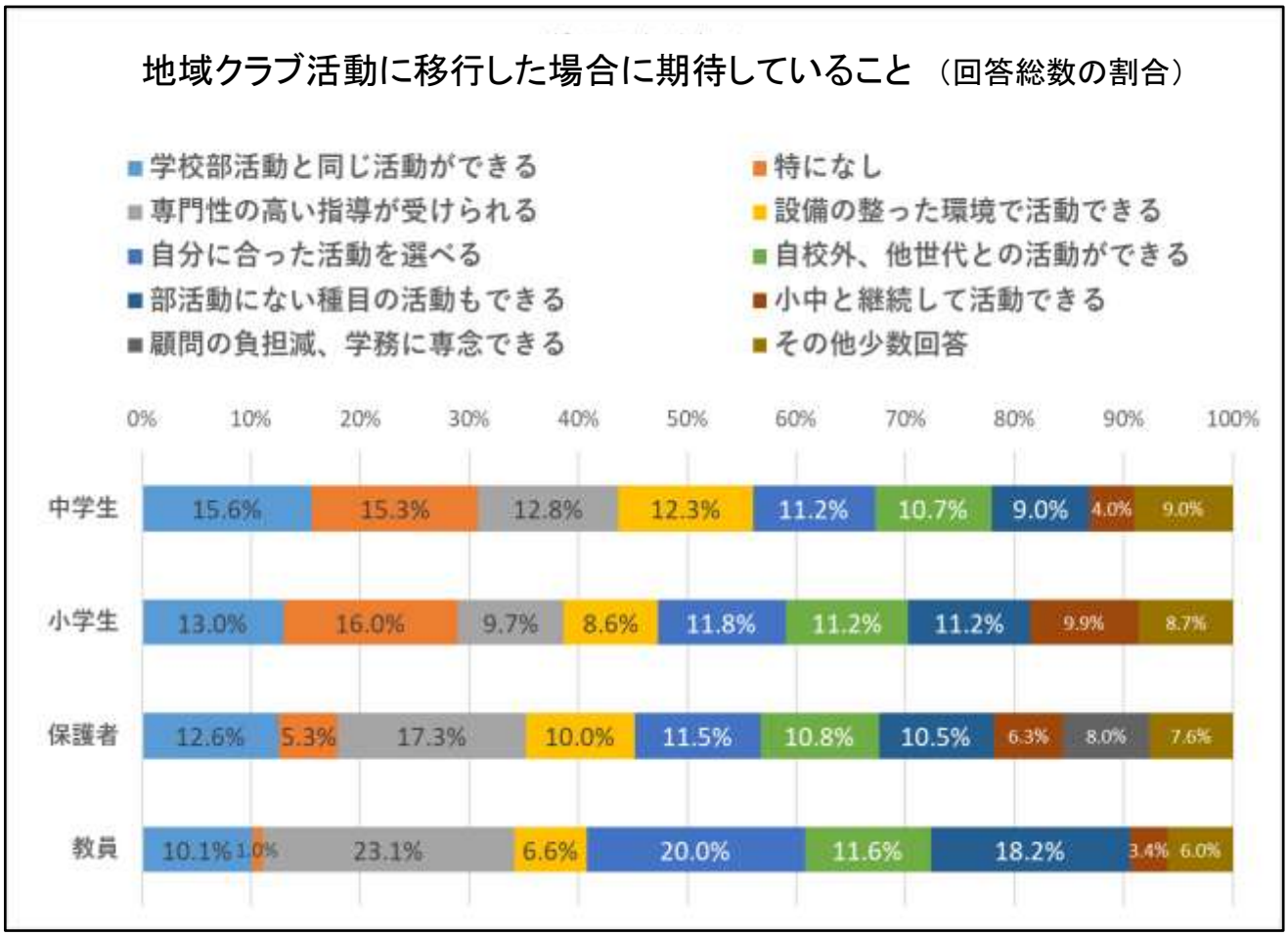
２　今後の地域クラブ活動について

（１）休日の活動が地域クラブ活動に移行した場合に期待していること（上位５つまで複数回答可）

【表７　地域クラブ活動に移行した場合に期待していること（人）】

	学校部活動と同じ活動ができる	特になし	専門性の高い指導が受けられる	設備の整った環境で活動できる	自分に合った活動を選べる	自校外、他世代との活動ができる	部活動にない種目の活動もできる	複数種目で大会等に出られる	複数種目の活動を並行してできる	小中と継続して活動できる	顧問の負担減、学務に専念できる	地域指導者としてかかわれる	その他	回答総数	対象人数
中学生	1,351	1,327	1,115	1,070	972	926	784	437	272	351			76	8,681	3,829
小学生	1,276	1,566	950	846	1,155	1,100	1,099	397	382	971			70	9,812	4,546
保護者	3,358	1,422	4,603	2,663	3,068	2,888	2,804	578	754	1,677	2,130	363	339	26,647	9,962
教員	525	51	1,203	343	1,043	604	948	79	200	178			34	5,208	1,979

【グラフ７　地域クラブ活動に移行した場合に期待していること（%）】



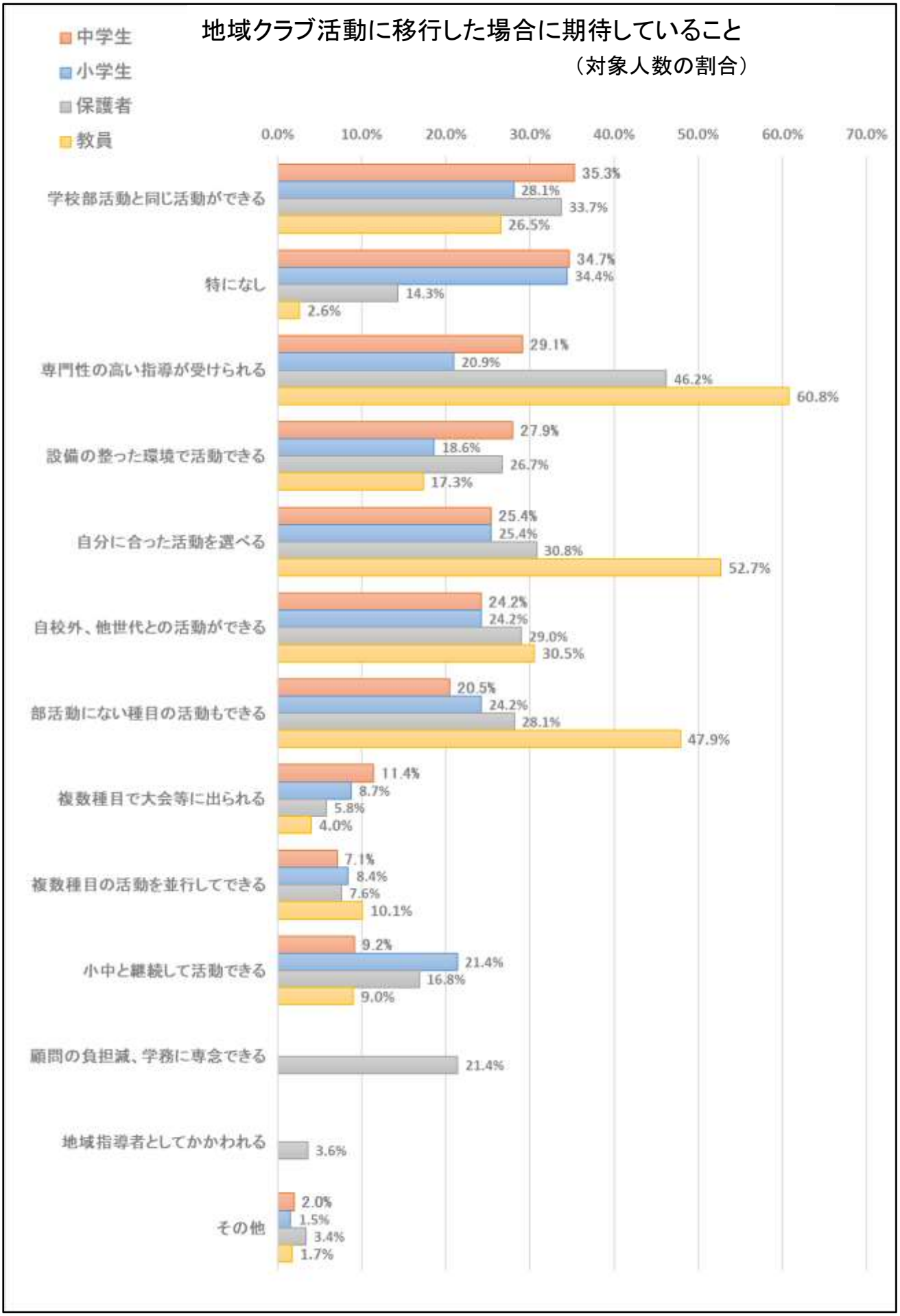
ポイント

・小・中学生は、「学校部活動と同じ活動ができる」、「特になし」が上位の２つ。新たに期待しているというより、現状維持に対する期待が高いと考えられる。

・教員や保護者は、現在の活動と比較して「専門性が高い指導」に期待する割合が高い。

・全県の回答率 15%の中で、363 人の保護者が地域指導者として自身が指導を行えるようになることを期待している。

【グラフ７（全項目）　地域クラブ活動に移行した場合に期待していること（%）】

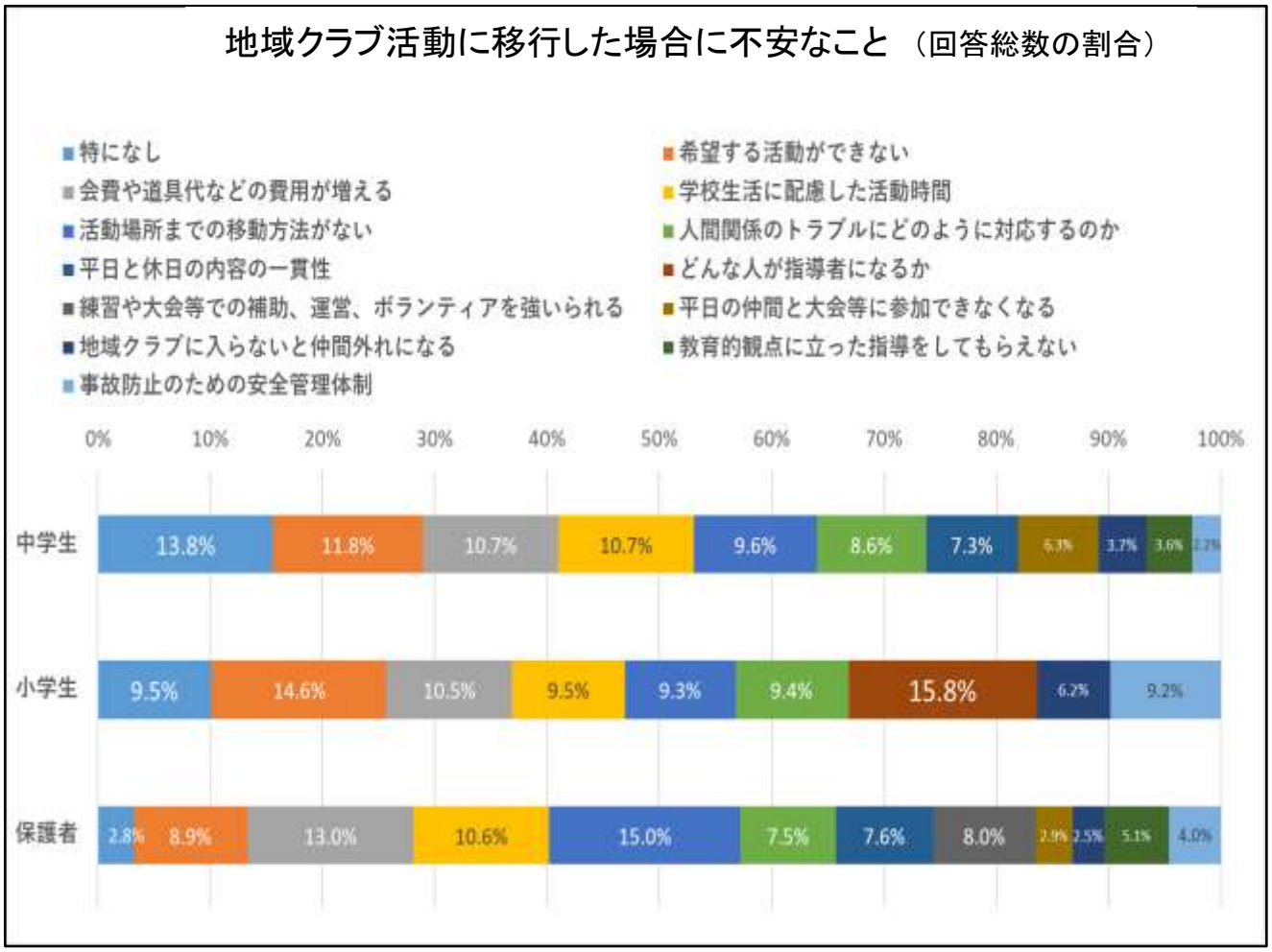


（２）－１地域クラブ活動を行う場合に不安なこと（上位５つまで複数回答可）

【表８－１　地域クラブ活動に移行した場合に不安なこと（人）】

	特になし	希望する活動ができない	会費や道具代などの費用が増える	学校生活に配慮した活動時間	活動場所までの移動方法がない	人間関係のトラブルに対応できるか	平日と休日の内容の一貫性	どんな人が指導者になるか	練習や大会等での補助、運営、ボランティアを強いられる	平日の仲間と大会等に参加できなくなる	地域クラブに入らないと仲間外れになる	教育的観点に立った指導をしてもらえない	事故防止のための安全管理体制	複数種目をしても大会参加は少ない	複数種目の場合、団体種目の大会に参加できない	進学等に影響がでる	個人の特性や障がい等に合わせた指導をしてくれない	地域クラブで有力選手が集まり、大会上位をとられてしまう	学校職員の目が届かなくなる	教員の負担が変わらない	その他	回答総数	対象人数
中学生	1,324	1,129	1,027	1,025	927	825	697			608	359	349	215	99	83	193	152	241	290		65	9,608	3,829
小学生	1,174	1,801	1,296	1,167	1,143	1,162		1,945			759		1,138				646				82	12,313	4,546
保護者	934	2,919	4,272	3,496	4,926	2,460	2,512		2,639	944	814	1,678	1,328	124	198	425	711	612	985	605	299	32,881	9,962

【グラフ８－１　地域クラブ活動に移行した場合に不安なこと（%）】



ポイント

・中学生は、「特になし」の割合が一番高く、次いで「希望した活動ができない」となっている。

・小学生は、「どんな人が指導者になるのか」の割合が最も高くなっている。

・保護者は、「活動場所までの移動手段がない」の割合が最も高くなっている。

・小・中・保護者共に、「費用が増えること」、「学校生活に配慮した活動」への不安が高くなっている。

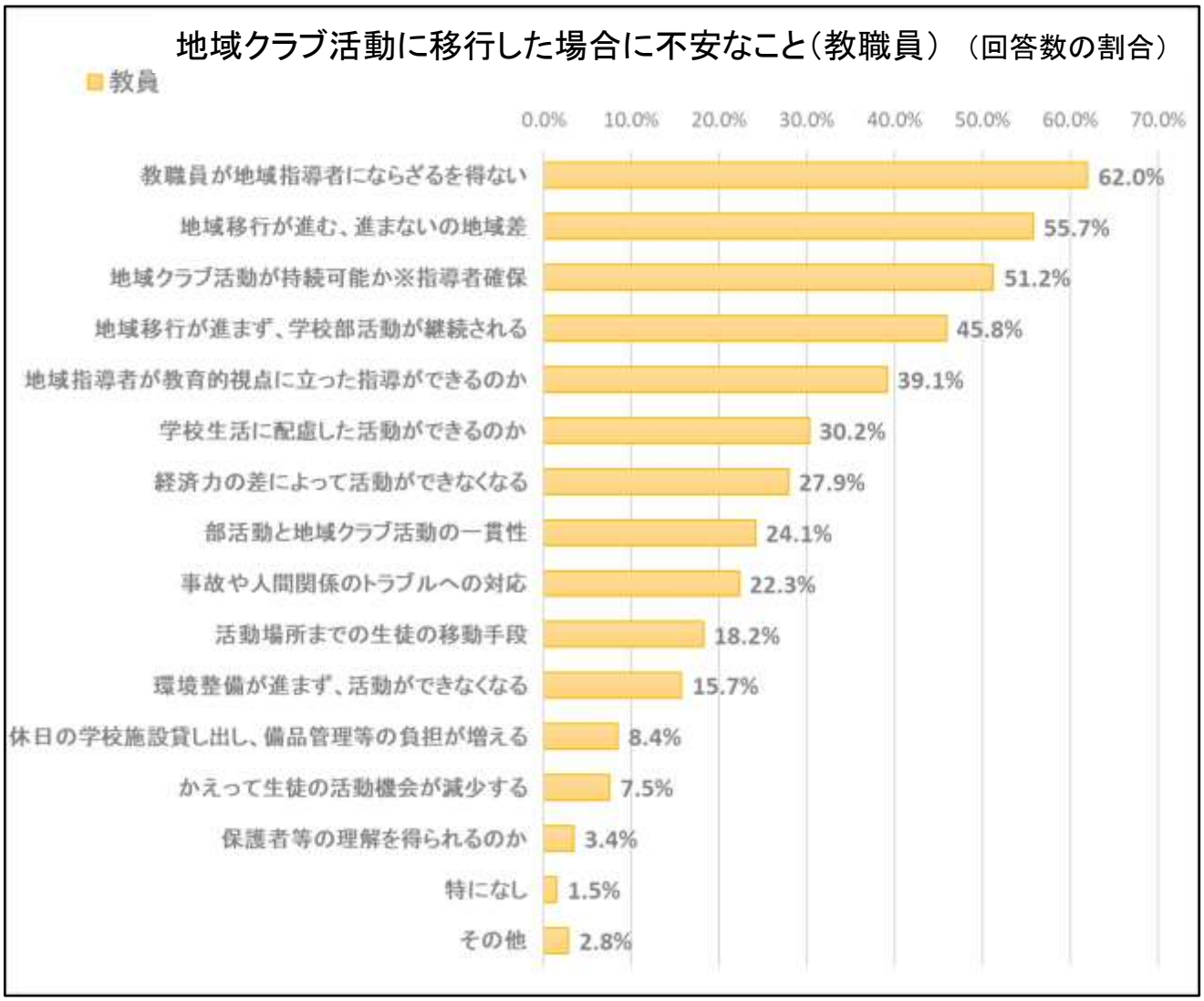
【グラフ８－１　地域クラブ活動に移行した場合に不安なこと（%）】

（２）－２地域クラブ活動を行う場合に不安なこと（上位５つまで複数回答可）

【表８-２　地域クラブ活動に移行した場合に不安なこと（人）】

	教職員が地域指導者にならざるを得ない	地域移行が進む、進まないの地域差	地域クラブ活動が持続可能か※指導者確保	地域移行が進まず、学校部活動が継続される	地域指導者が教育的視点に立った指導ができるのか	学校生活に配慮した活動ができるのか	経済力の差によって活動ができなくなる	部活動と地域クラブ活動の一貫性	事故や人間関係のトラブルへの対応	活動場所までの生徒の移動手段	環境整備が進まず、活動ができなくなる	学校施設貸し出し、備品管理等の負担が増える	かえって生徒の活動機会が減少する	保護者等の理解を得られるのか	特になし	その他	回答総数	対象人数
教員	1,226	1,103	1,013	907	774	598	552	477	441	360	311	167	148	67	29	56	8,229	1,979

【グラフ８－２　地域クラブ活動に移行した場合に不安なこと（%）】



ポイント

・教員は、「地域移行が進まない」、「指導者確保できない」、「学校部活動が継続される」等、教職員の働き方の改善にかかわる項目に不安が高い。

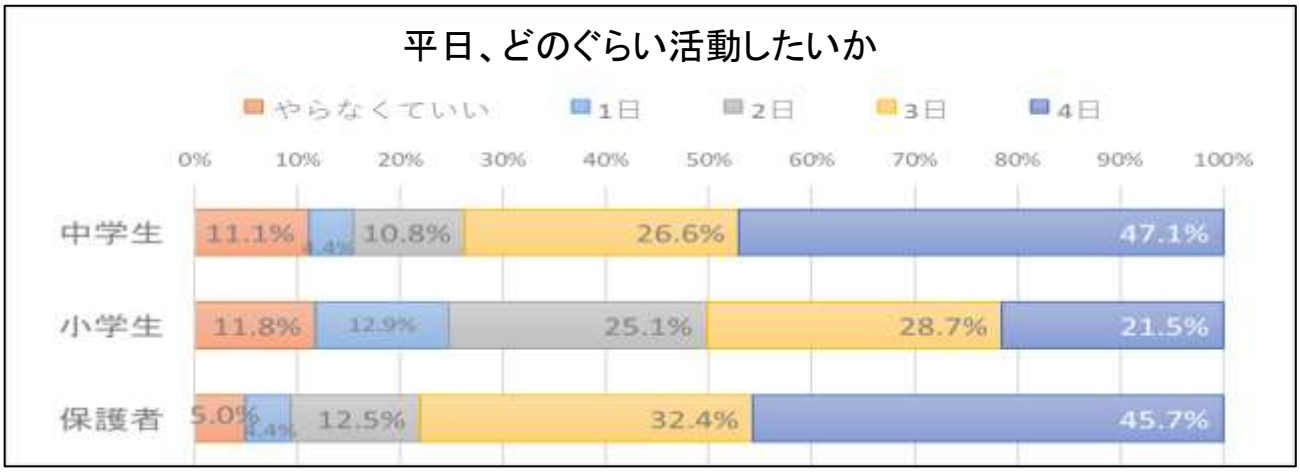
・また「地域指導者が教育的視点に立った指導ができるか」も割合が高い。教員は、地域での活動においても、教育的視点に立った指導が必要だと考えられる。

（３）　スポーツ・文化芸術活動をどのぐらいやりたいか

【表９−１　平日、スポーツ・文化芸術活動をどのぐらいやりたいか（人）】

	やらなくていい	1日	2日	3日	4日	合計
中学生	425	168	415	1,019	1,802	3,829
小学生	535	587	1,142	1,304	978	4,546
保護者	496	439	1,250	3,223	4,554	9,962

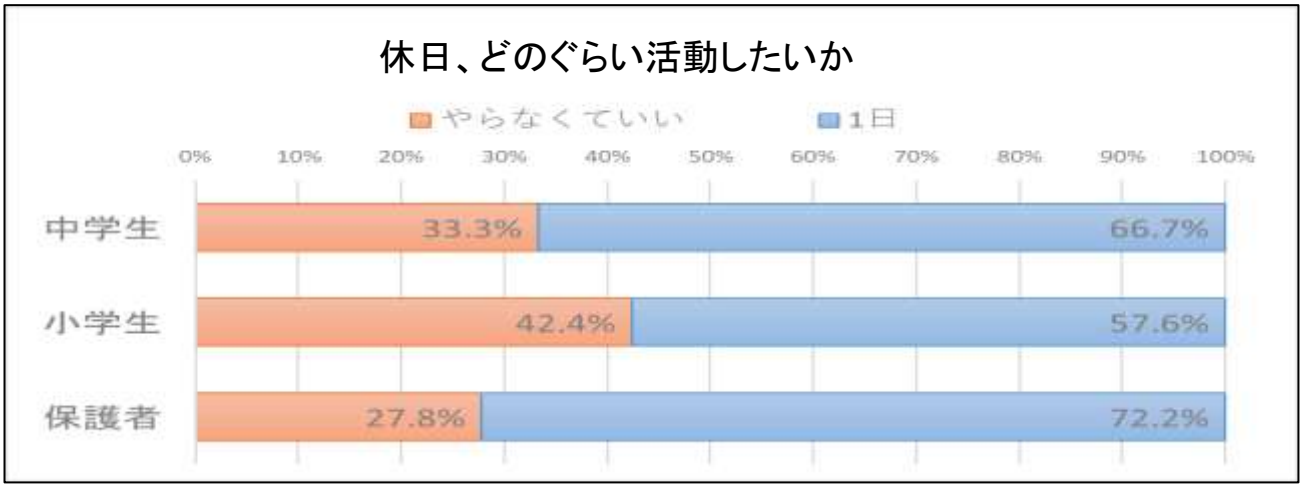
【グラフ９−１　平日、スポーツ・文化芸術活動をどのぐらいやりたいか（%）】



【表９−２　休日、スポーツ・文化芸術活動をどのぐらいやりたいか（人）】

	やらなくていい	1日	合計
中学生	1,274	2,555	3,829
小学生	1,926	2,620	4,546
保護者	2,768	7,194	9,962

【グラフ９−２　休日、スポーツ・文化芸術活動をどのぐらいやりたいか（%）】



ポイント

・中学生や保護者は、「やらなくていい」という考えの人を除けば、日数が多くなるにつれ、割合も高くなっていく。一方、すでに地域の民間クラブ等が受け皿としての割合が高い小学生は、２日〜４日を望む割合がほとんど変わらない。互いに、これまでの経験から、同程度の活動を望んでいると考えられる。

・休日は活動を「やらなくていい」と回答する割合も、３割から４割程度ある。

アンケート結果の考察

〇活動機会の保障

・子供たちの約９割は現在の活動でやりたいことができていると回答している。そんな子供たちが地域クラブ活動になることで現在の活動ができなくなることを不安に感じている。このことから、現役の中学生にとっては、現在学校部活動で行っている活動を保障していく必要があるといえる。

〇多様なニーズを考慮した活動

・子供たちが現在の活動を行う理由では「興味のある活動ができること」が最も高い。また、現在活動を行っていない理由では、保護者が「子供がやりたいと言わないから」、中学生は「やってみたい活動が部活・地域にないから」が最も高い。選択できる種目を増やすだけでなく、同じ種目において活動日数や活動内容から、多様なニーズ（やりたいことができる）に対応できる受け皿が必要だと考えられる。

〇自己肯定できる活動過程

・中学生の現在の活動を行う理由では、「達成感が得られる」の割合が 50.9%に対して、「試合に勝ったり賞を取ったりできる」の割合が 27.9%である。このことから、生徒は、結果が残せなくても自分が努力し続けたこと、仲間と共に一つの目標に向かって活動してきたことなど、結果ではなく活動の過程の中で、自己肯定感を高めたり、達成感を得たりしていると考えられる。学校部活動では、「試合に勝つこと」や「高い技能を身に着けること」よりも、「努力すること」や「達成感を得ること」を期待している保護者が多い。子供たちが主体的に取組む中で、満足感を得る活動が生まれると考えられる。

〇クラブ活動で生まれる価値

・現在の活動を行う理由では、小中学生の 50%以上が「仲間づくり」と回答しており、地域クラブ活動では自校外や多世代との新たな出会いを期待している。また、保護者や教職員の 60%以上が「社会性、協調性、規律性」と回答している。子供たちの心身の成長は、他者と共に活動する中で生まれる喜びや葛藤などが重要であり、同じ目標に向かって切磋琢磨する活動でこそ生まれる価値があると考えられる。

・指導者について「教育的視点に立った指導」という点に不安を抱く教職員の割合が高い。子供たちの主体性を考える際には、生徒の心身の健康を守り、健全育成に寄与できる地域人材の育成も重要になる。

教員や保護者が地域クラブ活動に期待していることの上位に「専門性の高い指導が受けられる」ことがあるが、現在の学校部活動に対しては約６割が専門外の競技を指導していることもあるためか、高い知識や技術の習得への期待は低い。教員や保護者には、部活動よりは専門性の高い指導が受けられるという期待はあるものの、９割以上の中学生が現在「やりたい活動ができている」と回答しているため、全ての生徒にとって指導者の専門性が必ず必要であるとは言えない。

県協議会や市町村教育委員会等からいただいたご意見　資料２

スポーツ課・学びの改革支援課

県協議会での意見

〇ニーズに応じた選択肢の在り方

・子供たちのニーズに応えるためには、種目数を増やすだけでなく、目的とか内容の部分も広がりを持たせた活動に移行していくという視点が必要だと思う。

・様々な意見があり簡単にいかないが、以前のような競技力を中心としたような大会の在り方だけでなく、学校やあるいは地域の考え方、子供たちや先生方、保護者や地域のニーズもあるので、多少ともその意見を集約できるような形も考えたい。

・今の部活動は週に５日、同じものに打ち込むというスタイルだが、子供たちにはそれ以外のニーズがあるので、もう少し種目・目的の面から様ざまな活動を準備できたら、自由で開放された活動になり、子供たちの参加率も増えていくと思う。

・地域スポーツクラブが受け皿の一つとして期待されているが、実際には県内クラブにそんなに体力はないし、指導者もたくさん確保してるわけではないので、より多くの人たちが関わりをもつために民間人材の掘り起こしも重要。

・中体連の大会に参加するためには「中学生期のスポーツ活動指針」を遵守する必要があるが、「好きをとことん探究できる」ことの保障も必要。

・音楽の関係では、地域に受け皿がなく、合同部活の実施には大きな問題がある。

〇指導者の在り方

・部活動を地域移行する場合に大事なことは、技術的なことのみだけでなく生徒指導に関わる子供にどう対応するとか、コンプライアンス問題とか事故が起きた場合の対応などが極めて重要。長野県独自の人間教育、まず人を育てることを大事にしているというところをある意味で全国に先駆けて PR するのも方法か。

・指導者という言葉に少し違和感がある。指導が必要な場面もあるが、子供たちのやりたい活動をサポートしていくという側面もかなりあるので、ファシリテーターとか見守り役とかコーディネーターとかコーチとか、そういう言葉で捉えていくことが大事だと思う。

・長崎県長与町では、中学校の部活動はスポーツの魅力と楽しさを味わうものなので資格を取って指導をするということだけでなく、いかに生徒が楽しんでその活動を３年間通して行うかということに意義をもってやっているということである。勝利至上主義ではないということをまず全面に出して指導者を募集し、ほとんど今までの中学校の部活がそのまま地域に移行してるという話があった。

・松本山雅のホームタウンとしての指定を受けサッカーに限らずいろいろな指導者を派遣してもらいたいということを盛り込み、指導者を確保した。小さな村では人材がいないので、広域に様々なスポーツ団体を求めて協力を得ていかないと、活路を見出せない。

・中学校の部活で野球部員の頭髪の自由を進めてもらいたいという話がある。現在高校野球でも頭髪を自由にしているところもだいぶあるが、野球イコール坊主頭というのが高校野球の影響で浸透している。中学校の指針に頭髪の自由というような項目を入れてほしい。⇒生徒の人権を尊重した指導

〇環境整備の進め方

・学校としては、この移行期の子供たちの活動をしっかり保障していくこと。それから、体制が地域主導に変わってからは、子供達が選択して、その活動を選んで自分で生涯続けていけるような力をつけていくこと。多くの大人や子供自身、またそれぞれの自治体等が、同じ方向に向かっていくというところをまずしっかりと意思統一できれば、意識改革と仕組み改革が同時に進められると思う。

・地域移行は、「教員の働き方改革をどのようにするのか」という視点から出発した議論なので、少子化になってきて子供たちの部活動そのものを変えていかなくてはならないというところを同時に考えなくてはいけないのではないか。

・団体種目は非常に切実な問題。野球、バレーボールなど団体種目の成立が難しくなっている。地域移行する過程で子供たちが参加するエリアをもう少し広げ、例えば高校と中学校の部活動を合体させて活動するとか、様々な対策が必要になるのではないか。

・代替として行われる地域クラブ活動とはこういうものだという定義を具体的に示していかないといけないと思う。

・指導者のレベルの違い、指導体制などの問題は、先進事例の成果と課題を共有することによって、体制整備を効率よく進めることができる。

・中学の吹奏楽では学校の楽器を使用しており、何十万円もする大型楽器の管理や楽器の修理の仕方、また学校の楽器をどう回すのかなどについて課題がある。また、大きい音がする練習会場の管理、併せてそれぞれバンドがばらけたときやどこかと一緒に活動するとなったとき指導をどうするかといったことにも課題がある。

市町村教育委員会懇談会等からのご意見

〇地域クラブ活動の環境整備

［指導者の量の確保、質の担保］

・有償での指導は責任が重いので受けられない

・農作業等により、むしろ土日の指導者確保が困難

・指導者謝金の支援が必要

・山間地では、教員の協力が必要

［財政支援］

・地域クラブ活動を持続可能にするためには、運営団体・実施主体の体制整備、コーディネーターの配置、指導者の確保、参加者の費用負担の軽減等についての財政支援が必要

・会費負担により参加できない生徒があってはならない

・実施主体となる団体に対しても、何らかの財政的な支援が無ければ持続可能にならない。

［環境整備の進め方］

・検討組織（協議会）を設立するイメージが持てない

・広域での検討が必要だが、リーダー不在。広域の調整支援が必要

・広域連携はかなりの時間と労力が必要

・保護者の理解を得ることが難しい
・中山間地にモデル設置してほしい
［受け皿の選択肢］
・部活動を継続したい生徒の活動を保障したい
・団体スポーツも経験してほしい
・部活動の全種目をカバーできない
［その他］
・ケガや事故等、トラブル発生時の責任の所在や対応に課題
・活動拠点までの生徒の送迎支援が必要
・地域クラブ活動の参加により、活動施設の調整が必要
・公立学校利用の場合のセキュリティー確保が必要（文化部）
〇中体連大会への参加
・指針の抜け道を探すのはよくない。中体連大会の在り方について方向性を明確にしてほしい
・クラブチームの大会引率や運営に協力した場合の報酬の在り方
・これまで単独校では中体連の大会に参加できなかったが、地域クラブで合同練習し大会で成果を発揮することができた。